

あなたが  
変わる!

地域が  
変わる!

連続講座

# 共生と共創の まちづくり もばら市民塾



## 最終まとめ

日時

10/14 (金) 10/28 (金) 11/11 (金) 11/25 (金) 12/16 (金)

総合計画

財政

行財政改革

市議会

まとめ

原則として隔週金曜日 18時～21時 (遅参可)

10/22 (土) 12/10 (土)

協働と市民参画 自治基本条例

13時～ (公開講座)

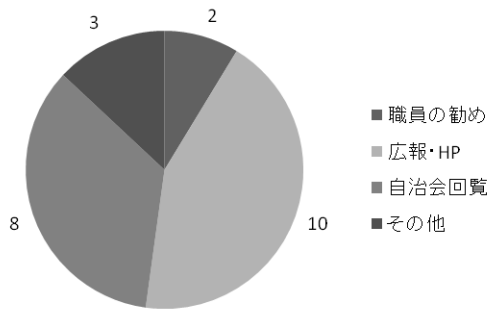


場所

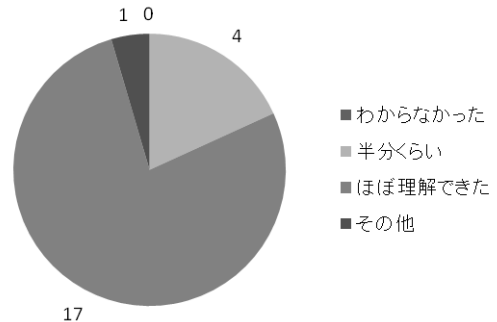
茂原市役所市民室 (茂原市道表1) 0475-23-2111  
(10月28日のみ 102会議室)

第1回 もばらの将来像～総合計画を考える  
 平成23年10月14日（金）18時～  
 会場：茂原市役所市民室  
 参加者：23名

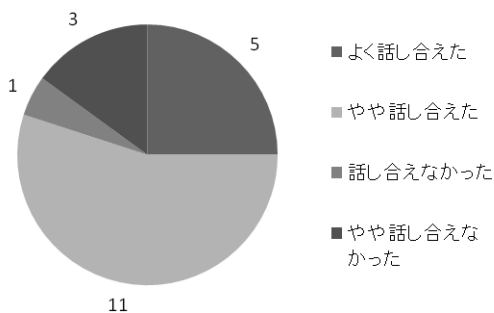
### 受講のきっかけ



### 講座の内容



### グループ討議



- 資料を元に総合計画について説明
- グループワーク：ブレインストーミング、KJ法  
 （テーマ：今後10年間の茂原市に「これが足りない」と思うこと）
- グループワークでの主な自由意見
  - 地域の活性化（地域の絆、組織づくり、地域ぐるみでの子育て支援）
  - 医療（高度医療施設、長生病院の充実、駅前そごうビルの有効活用）
  - 財力（海外からの雇用受け入れ、地場産業のブランド化）
  - その他（情報提供、市民活動を促す施策、市民に利用しやすい総合窓口、防災計画）
  - 行政改革（前期計画の未達成事項、評価分析、情報公開、質の高い行政マン）
  - 財政（バランスシートの作成、債務返済の方策を明確に）
  - 市民協働（地域で人育て、退職者の能力活用、共助を育てる、市民の知恵を活用）
  - 生活（気分が良くなるような公共スペース、買い物をする場、退職者の健康保持策）
  - 自立（学ぶ場、子どもの居場所づくり、中高一貫校、小中学校施設開放）
  - 地域の人々自らが少ない補助金で改善・改修に取り組む
  - 目的がなくても集える場所づくり、しかけ
  - 外部から遊びに来てもらえるような里山づくり
  - 災害時緊急告知システム、逃げ時マップ
  - 学校と地域の協働による子育て

- 耕作放棄地を生かして特色ある野菜・果物づくり

○受講者の主な感想

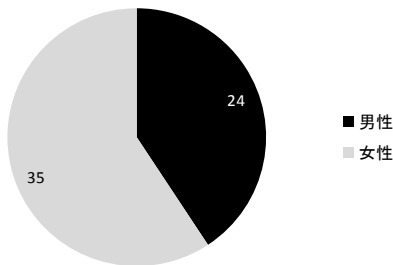
- 茂原市の抱えている問題を再認識できた
- 知識を得ることによって自分にも何か役立つことができるのではと考えた
- 総合計画についてよく理解することができた
- 時間配分が悪く、グループ討議が中途半端で終わってしまった
- 市職員、市議会の参加なくして協働とは言えないと思う
- グループでの話し合いで、市の将来をみんな真剣に考えていることに感心した
- 知的関心を呼び起こされた
- 質問や意見交換の時間が足りなかった
- 過去の事業評価も加えていただきたい
- 前期計画の未達成事項、検証結果をどう後期計画に取り込んだのか聞きたかった
- KJ法は非常に面白かった
- いろいろな立場の人の参加で、思いがいろいろあることを知ることができた
- 討議進行役として職員がテーブルごとに参加するのが望ましいのではないか
- 概要版を見てもピンと来なかったが、説明を聞いてよくわかった
- 市民参加によるまちづくりがいかに大切か考えさせられた

第2回（公開講座）ともに輝く地域づくり～いっしょに描こう これからの協働と市民参画  
平成23年10月22日（土）13時～（ハートフルフェスタ内）

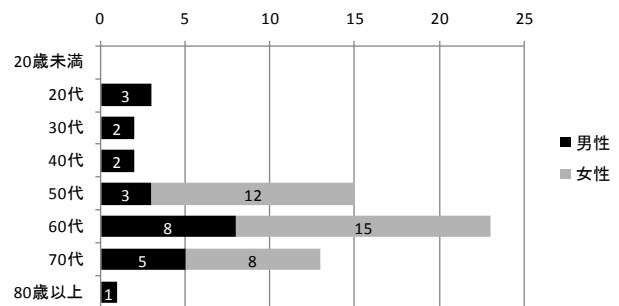
会場：茂原市役所市民室

参加者：112名

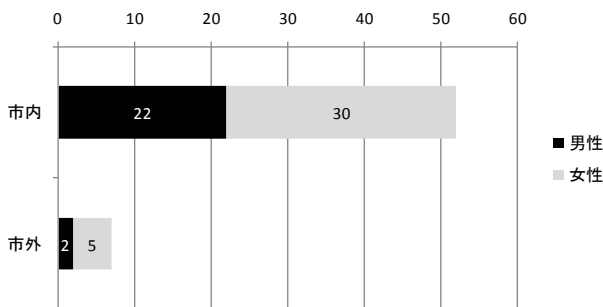
10/22ハートフルフェスタアンケート(男女別)



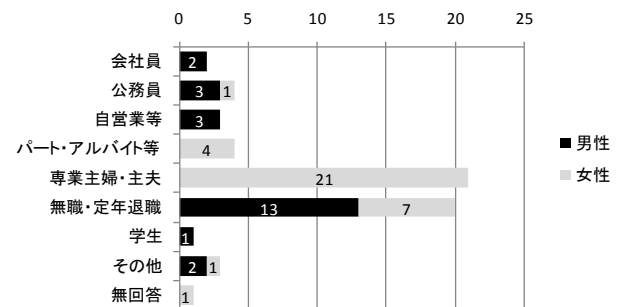
10/22ハートフルフェスタアンケート(年齢別)



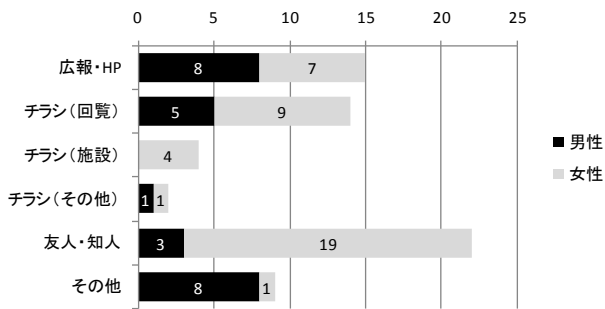
10/22ハートフルフェスタアンケート(居住地別)



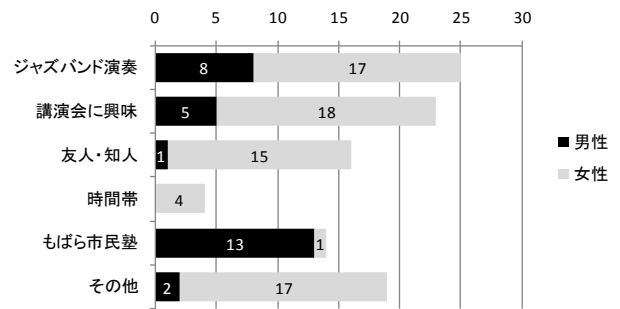
10/22ハートフルフェスタアンケート(職業別)



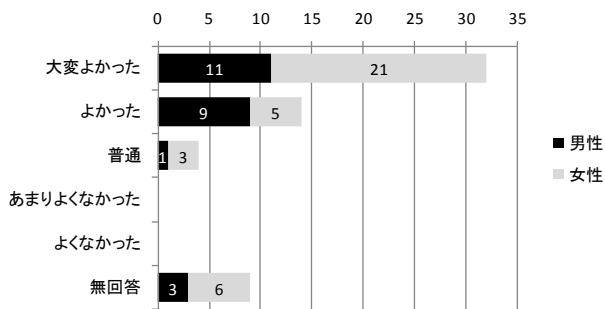
10/22ハートフルフェスタ 知ったきっかけ(複数回答)



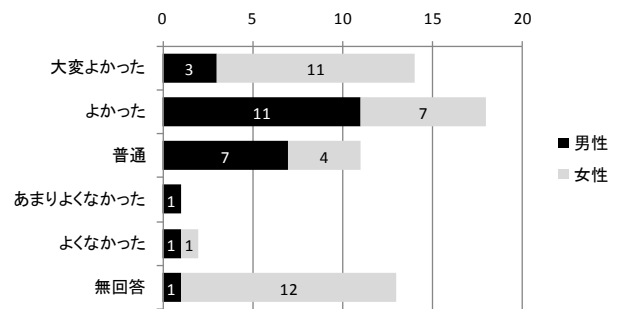
10/22ハートフルフェスタ 来場の動機(複数回答)



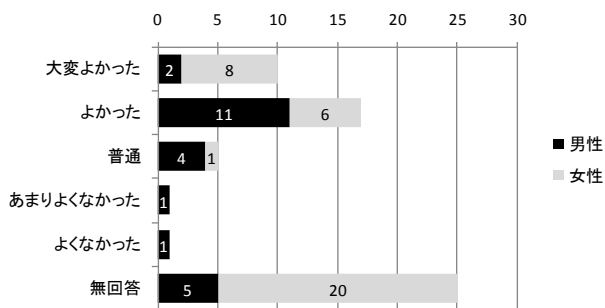
10/22ハートフルフェスタ 感想(ジャズバンド)



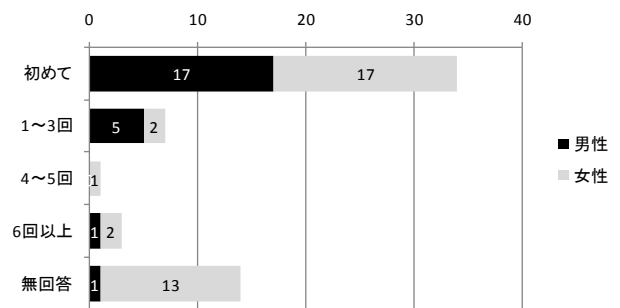
10/22ハートフルフェスタ 感想(基調講演)



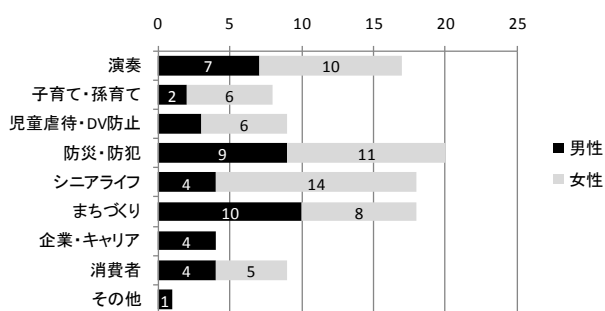
10/22ハートフルフェスタ 感想(パネルディスカッション)



10/22ハートフルフェスタ イベント参加経験



10/22ハートフルフェスタ 今後のテーマ(複数回答)



○パネルディスカッション (地域や家庭で現在取り組んでいること、市民参画をし、行政と協働するための大切なことについて考えていること、実行している事例、今後の茂原市がこうなってほしいと思うこと)

○参加者の主な感想

■全体について

- 大変良かった。年に1回程度続けて開催できるともっとよいと思います (60代女性)
- 中途半端な内容でした (60代男性)

- 行政を主体とした市民参加で自治会などを通じて啓発すべき。茂原市は住民意識が低いと思う（特に男性の参加を働きかける）（60代女性）
- 次回も参加できたらと思っています（60代女性）
- とても有意義でした。相手を変えるためには自分が変わらなければ…心に残りました（60代女性）
- 講演そしてパネルディスカッション、ありがとうございました。「〇〇が変われば〇〇も変わる」（50代女性）
- 子どもがたくさん生まれるような社会づくりを願っている。今日の講演会に若い年代の方々が聞いてくれればなお良いと思いました（70代女性）
- ジェンダー解放のためには子どもへの教育も大切であるという話があった。そのためには、子育てをしている20～40代の方がこのような催し物に参加したり、情報提供する機会がたくさんあればいいと思う（30代男性）
- もっと若者が参加できるよう、広報した方がよいと思います。大変有意義でした（20代男性）
- 自分が変われば相手（女性）も変わり、共創に役立つと考えます。1+1が3にも4にもなる共創こそ今後の課題と思います（70代男性）

#### ■ジャズコンサートについて

- 学生時代から今もジャズが好き（70代男性）
- グレン・ミラーサウンドが久々に聴けて幸せでした（60代男性）
- 女性のドラマーは初めてだが良かった（50代女性）
- もっとこのような行事を多く開催し、娯楽の場を増やしてほしい。プロでなくても十分に楽しむことができた（50代女性）
- 長生郡市の小中学校などで演奏をしていただきたい。とても素晴らしい演奏で、今後も聞かせていただきたい（50代女性）
- 楽しめたという点では良かった。さらなる実力の向上を期待します（60代男性）
- 「ペンシルバニア 6500」を追加してほしかった（70代男性）
- 来てよかったと思いました。楽しかったです。また聴きたいと思いました（60代女性）
- 昔よく聴いた曲ばかりで、もう少し会場が暗かったらノリノリで聴けたのにと残念でした。とてもよくまとまってグルーブしている様子が伺えました（70代女性）
- 生演奏が聞いて良かった（60代女性）
- 部屋の大きさに対して演奏の音量が大きすぎて困惑した。そもそも必要ないのでは（60代男性）
- 50～60年前に映画を見た（80代男性）

#### ■第1部：基調講演について

- 話はうまかったが、内容には啓発されるどころがなかった。うちではみんなやっている（60代男性）
- 「男女共同参画」を考える一助となった（60代男性）
- 時間が短すぎる（60代女性）
- 笑いもあり、わかりやすく聞かせていただきました（60代女性）
- 利用した統計の数値が2～6年前と古い（80代男性）

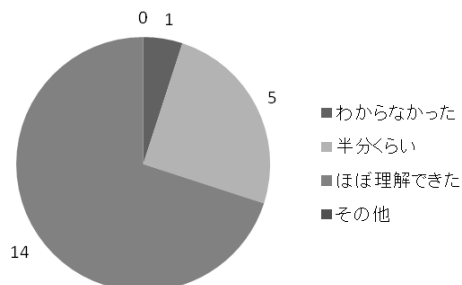
#### ■第2部：パネルディスカッションについて

- パネリストのご家庭の様子が飾りなく話されていて好感が持てました（60代女性）

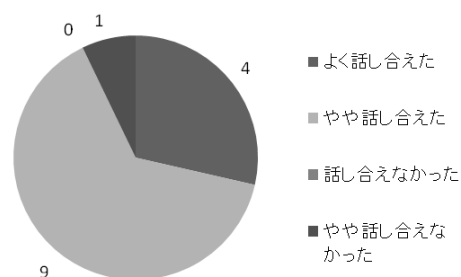
- パネラーの方々（特に浦島さん）のお話がとてもわかりやすく、本日のテーマを改めて考えるためのヒントをたくさんもらいました（50代女性）
- 浦島さんが素敵。人格などもっと知りたいです（60代女性）
- さまざまな家庭の中身を聞かせていただき、私のところと…と比較しながら楽しく聞くことができました（60代女性）
- 少し時間が少ないように思いました（30代男性）
- 少々物足りませんでした。中山さんが最後に述べられた理想に賛成です。具体的な取り組みを期待しています（60代女性）
- パネラーの家庭における夫婦や家族の実態を話題にされていましたが、1人の人間として尊重し合う精神の育成をどのように図るか、そこまで広げてほしかったと思いました。後年そのような方向に少し進みましたが、本日参加した人たちだけでとどまることなく、市として取り組みが実践に繋がるようにするためにはどのようにしたらよいか、課題として残りました（60代女性）
- 中山さんの話がわかりやすかった（30代男性）
- 浦島さんと庭田さんの自己紹介タイムとその後の発言内容が大変濃いものだった。これだけで参加した甲斐があった（60代男性）

第3回 収入と支出～財政を考える  
 平成23年10月28日（金）18時～  
 会場：茂原市役所1階102会議室  
 参加者：22名

### 講座の内容



### グループ討議



- 資料を元に財政について説明
- グループワーク：ロジックツリー、グループディスカッション  
 （テーマ：茂原市の厳しい財政状況を乗り越えるには？）

○グループワークでの主な自由意見

- 茂原市としての成長戦略を推進する
- 海外と協力して国際的に即戦力となる人材を育てるための施設をつくる
- 施設で育った人材を使って事業展開する企業を呼び込む
- 人材が茂原市に定住して、人口増加に貢献する
- 美術館の活用…王子江展（茂原市立美術館）～ホキ美術館（土気）～笠森寺（長南町）
- 成熟した市民の育成
- 観光地化（年間イベントの定着）
- ベンチャーファンド（成長有望な地元企業・会社を育てる）
- 経済特区になる（優遇税制、土地の賃借料）
- 債権の借り替え（低金利で引き受ける金融機関）、借り替え先の入札
- 健康増進事業、環境改善事業
- 財政改革（住民参加で支出削減、人員の適正化、人件費削減、効果ある事業だけ残す、業務の外注、教職員数を減らす、学校の統合、土地開発公社の早期解散）
- 収入増（市有土地建物賃借料の値上げ、税収の的確性）
- 計画的成長（駅周辺の土地活用、シャッター店舗の活用、内需拡大、安全に歩ける街、健康で長生き）
- 郷土愛
- 65歳以上の精神的肉体的（スポーツ）支援、高齢者の働く場所
- 市民参加による事業仕分け、組織のスリム化・見直し・無駄の削減
- ばらまきでない施設や組織の充実
- 市庁舎の空きスペースの企業への貸し出し
- 市町村合併、市議会議員数の削減
- 節電・節水
- 子どもが増えるような施策（子育て支援、大学誘致、芸術振興）
- 現状の把握、市民の意見（満足度）を知る
- 個人の起業を応援
- 国民健康保険の負担減（健康な人を増やす、保健委員の出前相談）
- 長生広域の負担金減
- 自治会や集団での節約の習慣づくり

○受講者の主な感想

- 後世語り継がれるような改革をともにやり遂げたい
- 市民塾が責任の所在を追及する場でなく、市民で茂原市を創る場であってほしい
- 参加者がみんな真剣に聞き、質疑応答し、討論できたと思う
- 6本の施策の柱ごとの支出割合を示した方がグループワークでの参考になったのでは
- 専門的な意見や質問が多かったが、それだけ関心が高い問題だと思えた
- 2回ぐらいに分けて実施した方がよかったのでは
- 市の財政を家計に置き換えるのではなく、実際の数字を示して議論すべき
- グループでの話し合いで積極的なものの見方が多く、希望はあると思う
- いろいろな人材と交流でき、多種多様な人材や意見を得られて有意義だと思う
- 質疑の方法には検討を要すると思う
- もう少し踏み込んだ説明が欲しかった（特に土地開発公社の件）
- 説明が具体的でよく理解できた
- グループの発表によりアイデア・思考があった



- 土地開発公社など連結決算の中身に触れないと本当の債務状態の説明にならない
- 市民が理解しやすい借金の経過説明、次世代へ向けた負担軽減策を示すことが必要

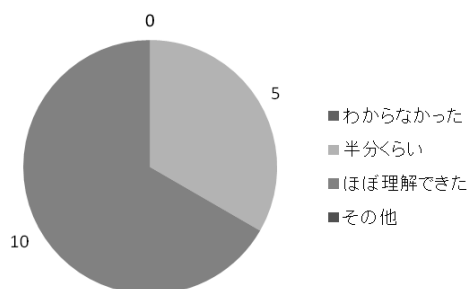
第4回：経費の節約とサービスの維持向上～行財政改革を考える

平成23年11月11日（金）18時～

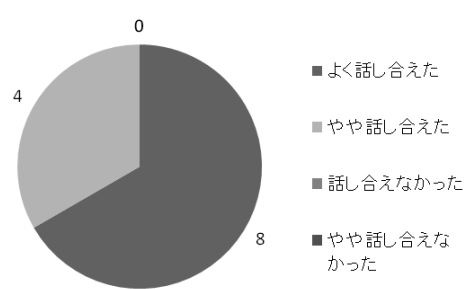
会場：茂原市役所市民室

参加者：17名

講座の内容



グループ討議



○資料を元に行財政改革について説明

○グループワーク：SWOT分析、グループディスカッション  
（テーマ：茂原市の強みを生かして機会に乗じるには？）

○グループワークでの主な自由意見

- 強み (Strength)：周辺地域の中心、駅の存在（特急停車、高校生の利用）、自然、天然ガス、ヨウ素、温暖な気候、成田・羽田への近さ、東京から1時間、海までの近さ、海まで離れていることによる津波への心配のなさ、災害コーディネーターの多さ、元気なお年寄り、安い地価、9万3千人の人口、隠れている人財（人材）、千葉の真ん中、起伏が少なく平野に恵まれた農業地帯、七夕まつり、図書館・美術館の充実、地域の拠点施設（福祉センター・公民館）、バランスの良い産業構造（農業・商業・工業）、人のつながり、人のやさしさ
- 弱み (Weakness)：病院の少なさ、問題意識の少なさ、協調性のなさ、新しいことに取り組まない、特徴がない、大学がない、地元の良さを知らない、リーダー不在、借金の多さ、海がない、医療過疎、観光資源の乏しさ、小中学校の耐震性の低さ、道路のアクセス、大型店の郊外出店による中心地の衰退、自治会加入率の低下、自動車がないと生活できない、朝夕の交通渋滞、道路の悪さ、財政不安、地盤沈下、名所・誇れるものがない、市の理解活動の不足



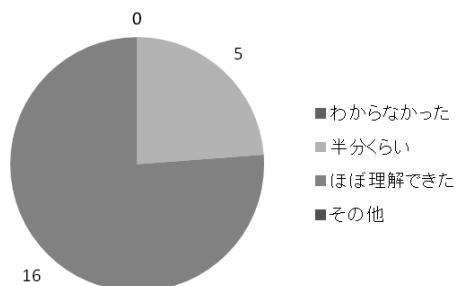
- 機会 (Opportunity) : 圏央道の開通、地方分権、グローバル化、周辺市町村との結びつき、活気をつくれる可能性、TPP 参加、円高
- 脅威 (Threat) : 少子高齢化、景気低迷、周辺町村の過疎化・少子化、働き口の少なさ、JR の本数の少なさ、デフレ、低金利、IT 化、大企業の撤退・空洞化、ディズニーランドの存在、水害、房総沖地震、水質の悪さ、政情不安定、新興国の台頭、東海原発事故の可能性、TPP 参加、円高
- 強みを生かして機会に乗じる : 工場・病院の立地、天然ガス関連事業による雇用の確保、移住の促進、農業の活性化 (法人化、雇用、生きがい)、農業の特産品づくり、観光農業、茂原を中心とした外房の観光スポットのコーディネート、ガスを利用しての発電、再生可能エネルギーによる発電、アートルート (土気のホキ美術館～笠森寺～市立美術館)、高齢者の活用・ボランティア活動への参加、人の優しさを生かした介護の里の確立、行政を支援する応援隊、市民参加、自治基本条例づくり

○受講者の主な感想

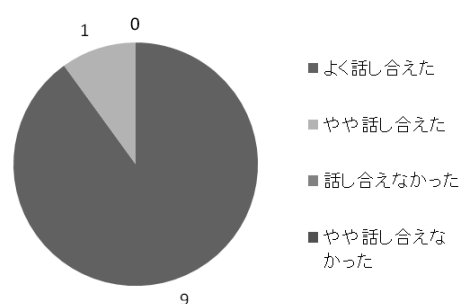
- 討議を重ねるうちにポジティブな考え方になり、アイデアがたくさん浮かんできた
- 説明がていねいで分かりやすかった
- かつての「お役所仕事」から脱却しようとしていることがわかった
- このような取り組みは市民の行政への参画意識を高めるのにとっても有効だと思う
- 思いは花。言葉は芽。知恵を出し合い、必要なことを計画して実行し実を結ばせるべき
- 市民も行政も協働して住みよいまちをつくっていかうという発表に共感した
- サービスの低下を抑えつつ経費削減に取り組んでいる姿がよくわかった
- 弱みをチャンスととらえる前向きな話し合いができ、有意義だった
- さまざまな経験や知識を持った人たちとの交流は非常に面白い
- 限られた財源をどう使うか、支出の内容について市民のコンセンサスを得るべき
- 機会と強みについて、それぞれの方の視点が違うことが面白かった
- 行革の中に IT を駆使した迅速化・経費削減が含まれていないことに違和感を覚えた
- 市の懸案事項を明示しないと市民との協働はできない
- 公助・共助の諸活動に参加して市政に貢献したい
- 質疑応答が前回よりも建設的なやりとりで手ごたえがあった
- グループ討議は進め方が難しい
- 市の組織とは別の民間の価値観を持つ人を入れた方が行革の効果がもっと期待できる
- まだまだ茂原市は捨てたものではない

第5回：市民の代表、意思決定機関～市議会を考える  
 平成23年11月25日（金）18時～  
 会場：茂原市役所市民室  
 参加者：24名

### 講座の内容



### グループ討議



- 資料を元に行財政改革について説明
- グループワーク：ワールド・カフェ（テーマ：市民協働と議会）
- グループワークでの主な自由意見
  - 議員の責任・市民の責任
  - 議員と市民の接点・つながり
  - 自分の考えと異なる意見も聞けて良かった
  - 議会報告会（個人・会派代表報告会）の開催
  - ブログ・フェイスブックなどで情報発信
  - 議会中継（ネットを使ったユーストリーム配信など）
  - 投票率の向上策…公開討論会
  - 議員活動をウォッチして評価する組織（カフェ）をつくり、市民に向けて情報発信
  - 議会がよくなければ、それは市民がよくないということ
  - 市民が市政に興味を持つよう意識改革をする努力
  - 市民と議会の相互注視
  - 投票した議員が何をしているか関心を持つ
  - 震災をきっかけに助け合いがよくなってきた
  - 市民が議員を育てる
  - 自治会レベルから議員を育てる
  - 生活に追われて市政や議会まで考えが及ばない
  - 投票率が高いだけではだめ。白紙投票も一票。

- 市民が市政に関心を持たなければだめ。
- 議員 1 人対 4,000 人の意思疎通
- 市長から議員への逆質問
- 自治会長が地域住民の意見を吸い上げる
- 議員は自分の一般質問を公開して話し合う場をつくって
- 井戸端会議を積極的に開く方もいた
- 自治会は市民協働の好例。宝庫。
- 議会は自治会をもっと活用できないか？
- 議会にいる人の立場では距離感を感じない
- 議会は資金がなくても案件を実現できるように市民協働を導く知恵と工夫をしていただきたい
- 自治会内でリーダーを育てようとしても、若い世代の考え方がズレてしまう（面倒である）その子どもの軌道修正が必要（道義的に）
- 意外と議会は近い存在
- 住民自治の大事さ
- 市民の関心で議会は変わる
- 市議会議員は身近であってほしい（定数増）
- 海外の議員はボランティア？
- 議員は民意を反映している。結構頑張っているのではないか。
- 議員は言いたいことが言えない。自分の主張を言うと良い
- 義務教育は全部タダに
- 県議会はなくて良い。市議会はあった方がよい。

○受講者の主な感想

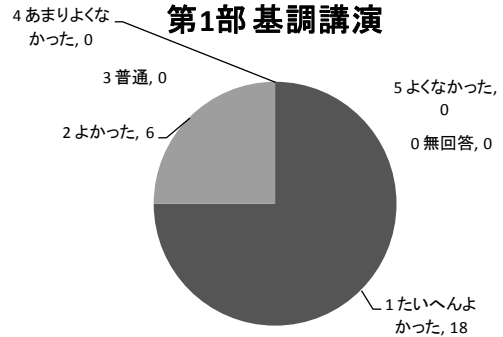
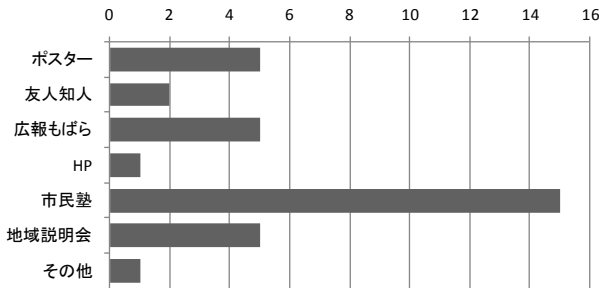
- 一般市民から見て議員が普段何をしているのかわかりづらい
- 若い人がもっと投票に行くべきだし、行きやすい環境をつくらないといけないと思う
- 市議会のしくみがよくわかった
- 市民の政治意識という点で市民自治への道のりは遠い。あせらない、あきらめない取り組みが大事
- 議会が市民にとって縁遠く、傍聴は敷居が高いと感じていたが、少し親近感がわいた
- 「市民協働と議会」というテーマはワールド・カフェにしては少し堅い気がした
- ワールド・カフェは面白い手法だった
- 市民はこの程度のことを講義してもらわないといけないほどレベルが低いはずがない
- グループ討議が非常に楽しく有意義だった
- みんながよくしゃべり、人が考えていることをよく理解できて楽しかった
- 善意の方が多く、茂原の将来に期待できそう。このチャンスを大切に
- 小さなコミュニティ（自治会）から市議会へと意見反映するところに民主主義を感じた。これが住民自治や地方自治、国政の原点だと思う
- 本会議は平日なので傍聴できないが、インターネットの動画などで閲覧できるようになればよい
- 回数を重ねて、運営や雰囲気はずいぶんこなれてきたように思う
- 質疑応答の時間を十分に取ってほしい
- 議会改革に「投票率の向上」を含めるべき
- 議事録は音声や動画で公開してほしい
- 議会と市民の距離を縮める努力を双方で工夫するべき。その中から市民協働の姿が見え

てくると思う

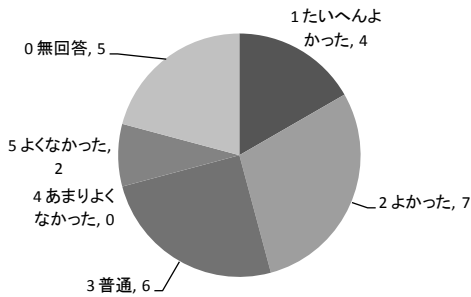
- ロジックツリーや SWOT 分析、ワールド・カフェなどの発想・検討の手法の成果は心もとないが、これから共生・共創を考えるときに役立つだろうと期待している
- 議会改革検討委員会について口頭で説明があったが、紙ベースでの資料がほしかった
- 法政大の廣瀬克哉氏の著書の紹介があったが、これに限らずテーマに沿った参考文献を紹介してほしい
- 「市民協働と議会」というテーマについて上手にまとめができなかったが、各グループの発表の中身が同じ方向になったのには驚いた
- これまで生活に追われて議会に対する認識が薄かったが、今回の説明でよくわかった
- ワールド・カフェという手法はなかなか良く、活用できると思った
- 12月議会には足を運んでみようと思った

第6回（公開講座）市民参加と自治体づくり～自治基本条例の制定に向けて  
 平成23年12月10日（土）13時～  
 会場：茂原市役所市民室

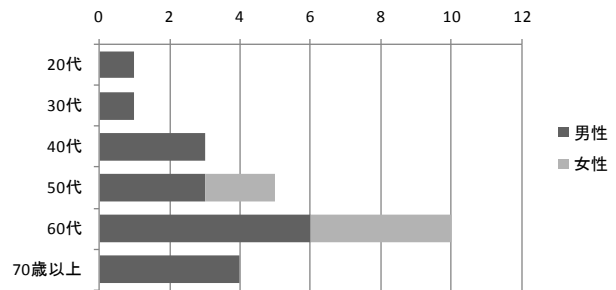
公開講座を知った理由(複数回答)



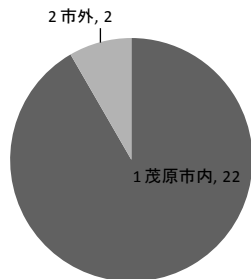
第2部 ワークショップ



回答者の属性(性別・年齢)



回答者の属性(住まい)



○基調講演「市民参加と自治体づくり～自治基本条例の制定に向けて」

講師：関谷昇氏（千葉大学法経学部准教授）

○ワークショップ「まちづくりワークショップ～いま茂原市に求められていることは何か？」

○参加者の主な感想

■第1部基調講演について

- 参加することにより、茂原市のことがわかり、とても勉強になりました
- 自治基本条例の大切さがよくわかった。わかりやすかった。
- 総花的な講演でしたが、条例づくりが必要であることがわかりました。
- かなり実務的なお話もあり、初めは学問的なことを想像していたのですが、ずいぶんわかりやすいお話が聞けて楽しいです。たぶん量・質ともに論点がたくさんあって、この時間では網羅できないと感じましたが、あと30分時間があるといいと思います。本を読んで全体像と個別具体的などところも学習してみたいので本などを紹介してください。

- 初めて興味を持って参加したが、大変役に立った。話がわかりやすかった。
- 総論・各論・実際例がバランスよく解説され、大変な説得力があった。関谷氏の講演企画に感謝する。氏は基本的に行政と住民の中間に立ち、両者を公正に取り持とうとしているからだ。しかし、農林業者の視点がないようだった。それを考えるのももばら市民塾塾生の役目かと思った。スライド投射と配布レジュメ内容が一致していたので、メモする手間が省け、その分関谷氏の話をも身を入れて拝聴できたことがうれしい。そのぶん、31Pは鮮明なコピーがほしかった。
- 住民自治とは？について解りやすく理解できたと思う。
- 限られた時間の中、いろいろな角度から話をしていただき、市民参加型の自治体づくりに対して認識が深まりました
- 具体的で実証的で大変参考になりました
- 知識のない私にもわかりやすかった
- 行政が国から自治体への流れ、その背景、市民の役割、コミュニティや地区組織の連携の重要性などが理解できました。形を整えるだけでなく、実のある自治基本条例にしていくためには、多くの時間とエネルギーを要することも確認できました。
- PIの採用とPIの言葉と意味を知りました。
- 話はとてもわかりやすかったですが、そもそも自治基本条例をつくることの意義が不透明
- 久々によい講演を聞くことができました。自治基本条例の背景がよくわかりましたが、議員の存在・活動との線引きができません
- なぜ自治基本条例が必要なかが少しわかってきた
- あまり知識のない私にも、よく理解ができるような講演でした。日本そのものが危機にひんしている今、市民レベルでのグローバル化、活性化は必然と思いました。
- 自治基本条例の必要性が認識できた
- 社会構造の変化の中で行政ができる範囲や限界が生じてきている。そんな中、地域を支える地域活動が重要になってくると思った。
- 自治会（私たちの地域）の問題がいろいろとあるので、とても勉強になりました
- 新しい知識、新しい考え方、方向性を学ぶことができた。他市町村の実例を知ることができて良かった。自らの啓もうにもつながった。今後に生かしたい。茂原市は保守的に思えてきた。
- 自治基本条例制定に向けて講和内容がよくわかりました。自治会の運営に役立ちそうです

## ■第2部ワークショップについて

- もう少し話し合う時間がほしい
- 少しですがまちのことが分かりました。
- 討論会があったのでびっくりしました。知っている限りでできるだけ考えました。皆さんくわしくご存じなので、これからも勉強しなくてはと思います。「情報の共有」についてがテーマでしたが、相対的にも絶対的にも分かり合える姿勢が必要と思います。
- 時間がない。テーマが与えられずにスタートに時間がかかった。とまどった。勉強になったのは事実。
- 関谷氏による「まとめ」が具体的で今後役に立つ。特に室文化との融合が重要。コミュニティの形、住民をいかに巻き込むかなど。
- 回数を重ねた効果で、テーマ決めから手順までスムーズに実施できたと思う。



- 若い世代の参加があり、幅広く意見交換ができました
- 情報を共有する難しさを感じた
- 講評から得ることがたくさんありました。
- 協働ということをある程度理解できました
- テーマが不透明で時間が短かった
- テーマが時間の割に広すぎます
- 時間が短いのでワークショップ参加者の意識がまとまらなかった
- 私のグループは枝葉の部分での話し合いが多かったのもっと幹の部分での話し合いができればいいと思いました。その後の先生のコメントは良かったと思います
- 多くの人の意見、考え方が聞けて良かった
- 講師の方が話してくれたが、NPO、自治会など他の団体から他をみると「異質なものと  
の交わり」であるということ念頭に置こうと思った。「共有」、「媒介」が大事。
- 5人のグループディスカッションであったが、いろいろと考えている皆さんの考え方は非常に参考になりました。
- 自己紹介もなく、勝手にバラバラでつまらなかった。グループワークの場合はどんな導入が必要か。今までになくよくなかった。時間が長かった。会場が寒かった。

## 第2部ワークショップ「いま茂原市に求められていることは何か？」 主な自由意見

- リタイアした人が地域の見守り役を…子どもは後ろ姿を見て育つ
- ノウハウを活かす
- 感性に訴える
- 現役世代は所属組織に縛られる…できることは何か？
- 知らなければできない→生涯学習、情報を伝える
- 地方分権一特区
- 現役世代の地域・行政への参画
- 自治会、NPO、自主グループなど地域住民、地域コミュニケーションのネットワークづくり
- 毎月、市や警察等の広報紙を回覧配布しているが、市民は見えていない。市政に関して無関心。もっときめ細かい広報を。住民の啓発
- 自治会も高齢化してきている。活性化するにはどうするべきか。
- 議会（議員の市政報告会がない。地元だけでなく地域を指定して報告会を。各議員と住民のコミュニティ。情報のキャッチボール）
- 借金で委縮している行政マインドからの解放。
- 地域人材を育てるため、汗をかいている人にスポットライトを当てる。
- 強いリーダーシップを持った市長。
- 地域防災組織を立ち上げる
- 榎町の空いている店舗の活用。人が出入りする場所の確保
- 国際交流をもっと活発に
- 自治会からの要望が何年たっても実現されない
- 「住民」から「市民」へ
- 協働・連携（義務と権利の認識、市民からの協働提案、各団体の連携・ネットワークづくり、社会福祉協議会の活動との連携、参加する機会をつくる行動・場）
- 協議の場（個人から地域、地域から市民。地区組織の整備充実。職員・市民の学習機会

を多くつくる。身近な不満、問題をみんなで考えることから。日常生活の不便などところの意見を聞く。話し合う場や機会をつくる)

- 情報の共有（楽しい市役所づくり・携帯サイトの開設。大学のサークル、高校の部活の参加。千葉テレビの活用。市民に前提条件として材料を相互に提供）
- 市民同士の情報交換の場づくり。
- 市民活動室の設置。
- 市民意識を高める（自治会・地区社協・NPO。小さなことから第一歩）
- 現在の地区の協議会のようなものの活動が不透明。
- 市民提案事業を募集、交付金制度
- 各組織の連携（老人クラブ、自治会など。横の連携）
- 市民参加
- 茂原市のこれから（人口減少が住民生活に大きくマイナス。商店街活性化に小業者以外をいかに巻き込むか。七夕まつり以外の観光的ポイントを市民に知ってもらう。市内に働く場所の確保を。景観の再構築）
- 行政と条例（自立した市民をいかに育てるか。いかに市民の声をすくい上げるか。参加者自身のレベルアップをいかに図るか。条例とは？まだ実感としてわからない。これまでの成果を活字としてまとめ、公開する。条例制定には広い範囲の意見が必要。農業者の意向を聞くことも必要）
- 医療と福祉（茂原市の医療過疎の解消を考える。夜間救急を救う。市民の手で老後の居場所づくり。介護予防して介護にならないまちづくり。高齢者と子どもの交流をまちぐるみで。ボランティアと生きがいの連結。高齢社会の住みやすいまちづくり。スローライフ社会…福祉・環境。都市開発からの脱皮）

## 第7回 まとめ

平成23年12月16日（金）18時～

会場：茂原市役所市民室

- これまでの市民塾のまとめ、自治基本条例について資料に基づき説明
- グループワーク：KJ法の応用（テーマ：市民像のこれまでとこれから）
- グループワークでの主な自由意見

### 市民像のこれまで（反省点）

- 無関心（行政任せ、議会任せ。傍観者。お客さん。自分の生活が忙しく、市民として考える機会がなかった。自分に関係ある事柄にのみ関心。行政に要望しても実現可能性が低くあきらめ。）
- 受け身・内向と期待（役所任せ。自分が貢献することは考えなかった。福祉について考えてこなかった。伝統的地域の風土に順応）
- 利己主義（自分の都合を優先。クレマー。ないものねだり。欠点探し、悪口。要求・要望を出すのみ）

### 市民像のこれから

- 関心（市議会・市政に関心を持ち、勉強し、参画意識を持つ。自己啓発。議会と関係を密にする。行政へ要望したことはあきらめずに追求していく。）
- 行動（自らも参加し、協力する。行政・市民がよきパートナーに。市長と話し合う会へ

の参加、市議会を傍聴。一人ひとりが主人公に。一人だけで考えない)

- 参画（これまでとは人口構成、財政状況がまったく異なってくるので、それを補う意味で自分の関心がある分野に積極的に参画する。参加する努力をする）
- 自助（積極的の市民。自分たちでやる。福祉について考える。教育・環境に重きを置く）
- 思いやり（利他主義。議員を育てる。地域のことを考える）
- 提案（モノを言う。代替案を持つ）
- 変化に挑む（変化にチャレンジ、地域の人たちとの交流）

### 結論

- 自分のことだけを考えない。他人に立場や社会のあり方に思いやりを持った市民になる
- 今後の日本、茂原市の財政難・高齢化・低成長の時代を迎えるにあたって、ここの市民が市政に関心を持ち、自ら参画して、健康で安心感を持って生活できるような環境をつくっていく
- 市政や地域のことを監視し、提案する
- 行政・議会・まちづくりに関心を持つ
- 市民としての自覚を持ち、協働参画する
- 郷土愛と市民同士の思いやりを持ち、建設的な提案をしていく
- 今まで行政に無関心、内向き、消極的であったが、これからは市政に関心を持ち、自分たちでできることは自分たちでやり、それ以外を行政と協働する
- 何事にも変化にチャレンジする気持ちと行動をする
- 地域社会をよくするため行動する（福祉、教育、環境等のソフト面）

### これから求められる市民像を実現するための方策

- 参加するための場づくり
  - 自治活動
  - 地区社協などの活動
  - ユニバーサル就労
  - 学校開放（子どもとの交流）
  - 交流の場所の提供
- 市民塾の開催
- 自治会の活動をより盛んに
- 市民スポークスマンを各分野・地域に
- 市職員の担当地域制度
- 議会の監視、関心を持つ
- 選挙の公約をチェック
- 市の広報、ホームページに関心を持つ
- 行政からの PR の充実と市民の積極的参画
  - 議会のインターネット中継
  - 公開討論会（選挙時）
  - 議会の傍聴
  - 市政に関する積極的な情報収集
  - 学習会や企画等への参加
  - 議事録公開の迅速化
  - 市長と話し合う会への参加

- 議員の議会報告会の実施
- 議員のホームページの充実、タイムリー化
- 行政からの PR の充実と市民の積極的参画
- 小さな単位（参加主体、参加内容）でもとにかく取り組んでみる
- 講演会・出前講座
- 井戸端会議
- 地域のボランティア、オピニオン・リーダーの育成
- 自治会報で地区 PR（ブログ）
- 茂原を知る
- 広報の充実
- 市民からの提案制度の活性化（市長への手紙）
- 従来無関心であった者を具体的に關心をもって行動する（議会、市役所、広報）
- 市議会の傍聴
- 市の担当に理解できるまで聞く
- 広報をよく読む
- 市議会以外に市民が気軽に入れる場
- 交流や勉強する機会を通して常にチャレンジ精神を持つ
- 世の中の動きを常に勉強する
- 新しいことに關心を持ち、行動する（具体的に）
- 交流や勉強する機会を持ち、新しい知恵を出し合う
- 市民向けのいろいろな講義に参加・勉強する
- 姉妹都市のソルズベリー市の良いところを学ぶ
- 近隣を巻き込んで、小さな第一歩から前進する
- 小学生の下校時にウォーキング
- 周りの人を巻き込んで活動
- 公園掃除など小さな第一歩に参加する（高齢者も）
- 近隣の人たちで互助の行動を起こす
- 退職者の人的資源を上手に活用する